

社内ネットワークはこんなに楽しい

『その話はメールでしてくれ!』

コンピュータ業界に働く人は、いまだに世間一般の会社で働く人から、根が暗そうだとか、人付き合いが下手みたいとか、自分たちが思っている以上に奇異の眼差しが投げかけられているようだ。実際はどうなのか、客観的に見てみたいと思ったことがある。この本では、UNIXとTeXを使っているある会社に入った著者が、そこで働く人とLANを使ったコミュニケーションに初めて接触したときの体験をつづっている。職場の半径5メ

ートル以内にいそうな人々が出てきて、電子メール、BBS、talk、writeといった電子化された手段でコミュニケーションをとっている。コンピュータ業界に働く筆者からすると日常の風景でしかないこの会社が、初めてこの業界に飛び込んできた著者からすると驚愕の空間であつたらしい。ビジネス本には書かれない実物大の会社の風景が、新入社員の新鮮な視点で描かれている。この業界に勤めようとする学生は、初入社する前に目を通しておきたい。実は、もう1つこの本の読み方がある。業界になじんでしまうとそこでのふるまい

が普通に思えてしまうが、業界の外からは、少し異様に見えるというわけで、逆手に取れば、非コンピュータ業界の彼氏・彼女と付き合うときのチェックブックにもなる。普段は口下手で電子メールの書き込みになると饒舌になるという人は要注意。なんか変と言われないように、デートの前に読んでおこう。



会社で使う 仕事に使う

菊地宏明 Hiroaki Kikutchi

加納ラサ+熱帯プロダクション著
翔泳社発行
207頁 1200円
ISBN: 44-88135-241-5

ビジネス利用の基礎知識を得る2冊

『仕事に活かすインターネット』

『インターネットビジネス』

インターネットブームで個人向けの入門書は増えているが、会社として新規にインターネットに参入しようとするときの入門書は少ない。この種の本でありがちなのが、イエローページのようなインターネット上のデータベースや情報リソースの所在を解説するだけなのだが、『仕事に活かすインターネット』は仕事でインターネットに参入するメリットの解説からはじまり、インターネットを商用的に利用する方法、使

われるツールの解説、商用利用した例や参考になるリソースの掲載もある。AUP(Acceptable Use Policy)の遵守、情報を提供することの必要性、ダイレクトメールなど情報の一方的配信の禁止といった、企業が商用に使う場合に守るべき重要な項目をていねいに説明しており、インターネット参加を考えたときの参考になる。しかし、この本では企業自らがサーバーを構築するところまではふれておらず、インターネットプロバイダーに情報の発信を委託するような方向で内容は展開していく。

インターネットへの接続を説明する部分は、日本国内の事情に合わせて書かれているが、商用利用に役立つリソース(情報を発信してくれるプロバイダー)が紹介される重要なページにさしかかると、訳本の悲しさか、米国内だけに留まり、日本のリソースは掲載されていない。

もう1冊の『インターネットビジネス』では、国内の情報発信を行ってくれるプロバイダーについての記述が見られる。この本も、インターネットで商用利用を開始する手引き書になって

いるが、情報の発信から、さらには電子商取引(エレクトロニック・コマース)の可能性が書かれている。機密性の高い情報を送る場合のセキュリティ問題や、インターネット上での決済、電子的な貨幣を使った実験プロジェクトを紹介し、インターネットの商用利用の最新動向を解説している。今後の問題点を把握するうえで、こちらの本のほうが良い。

2冊は内容的に重複する点もあるが、補完している点も多く、合わせて読めば、インターネットをビジネスに活用しはじめる際の資料作成に役立つだろう。

Jill H. Ellsworth, Matthew V. Ellsworth 著
吉田英治訳 石川和也監訳
ソフトバンク発行
270頁 2200円
ISBN: 4-89052-719-2



小川唯史著
高橋徹監修
新紀元社発行
187頁 1800円
ISBN: 4-88317-044-6

法律家が考察するパソコン通信の事件

『ネットワーク社会のセキュリティ』

インターネットといえども現実世界に存在する。そこで行われる通信でも法律に触れることが起こっている。技術者としてインターネットを使っていると、ついつい忘れがちであるこのことを改めて思い出させてくれる本である。弁護士である著者が、パソコン通信での電子メール暴露事件や名誉毀損問題を例にあげて、事件の法律的な解釈や問題を説明している。

電子メール暴露事件は、あるBBSが悪意を持ったハッカーの温床となり、そこで公開された他人のIDを使ってニフティサーブに性的に挑発する内容の文書を掲示し、その返信を出した利用者の電子メールの内容を公開した事件だ。その事件のキー



藤原宏高著
ソフトバンク発行
271頁 1400円
ISBN : 4-89052-406-1

盗用を犯罪として処罰するよい方法がないという記述には背筋がゾツとした。名誉毀損問題にしてもそうだ。ニュースグループでもたまに過激な暴言を見かけることがある。そういえば、キーボードを前にするとおとなしい性格が一変して攻撃的になる友人がいて、ネットワークの至る所に敵を作っていたようだ。そんな性格ならば、名誉毀損問題も他人事ではないはず、人ごとながら寒気がする。前半は、我々がネットワークの中で過ごす間に知らず知らずにトラブルを起こしたり、トラブルに巻き込まれたりする可能性を示しているが、後半では電子取引やマルチメディア化などのネットワーク技術によって起こりうるトラブルについて警鐘をならしている。よく言われる、法律が技術に追いついていないという現状を、弁護士の側から説明されると、個人の危機管理の大切さを思い知らされる。

Katie Hafner, John Markoffa 著
服部 桂訳
NTT出版発行
350頁 2800円
ISBN : 4-87188-387-6



ネットワーク犯罪のノンフィクション

『ハッカーは笑う』

犯罪を犯した3人のハッカーを追ったノンフィクション。実際の人物を追っているにもかかわらず、サイバーパンクSFでも読んでいるように感じている。インターネットで行われる犯罪と、それを企むクラッカー(犯罪行為を犯すハッカーを区別してこう呼ぶ)、彼らはなぜ犯罪を犯していくのかをジャーナリストの2人は入念に記している。そこにはハッカーのサブカルチャーを垣間みることができ、ハッカーが探求心と犯罪の間の一線を越える経過を読むことができる。インターネットで「IP 騙しテクニック」を使って

不当なログインをして大量のクレジットカードのIDを盗んだケビン・ミトニック、スパイ活動をしてしまうドイツのベンゴ、インターネット・ワームを解き放ったロバート・モリスは、結局法によって裁かれるわけだが、先の『ネットワーク社会のセキュリティ』に書かれる日本の現状とは、まったく異なる点に目を見張るところがある。エピソードに書かれたケビン・ミトニック逮捕の協力者、下村氏がこの事件に関わった件を読むと、犯罪捜査がこのように行われるのかと感心させられる。ハッカーの実像を正しくとらえた著者のセンスに敬服する。しかし、ハッキングの部分は用語が難しくなるので、この本を楽しめるのはハッカー予備軍程度の知識が必要だ。

ネットスケープの初心者用マニュアル

『インターネットネットスケープクイックガイド for Macintosh』

Netscape NavigatorをFTPサーバーから持ってきて、マニュアルも見ないまま使い始めていないだろうか。最近のGUIのアプリケーションソフトを使う人は、その傾向が強く、MacintoshのユーザーもWindowsのユーザーも、マニュアルなしに使い始める。必要な機能を探するときになって、初めてマニュアルを読み始めるわけだが、マニュアルが英語では頭が痛くなる人もいること

だろう。この本は、Netscape Navigator 1.1Nの機能を日本語で解説してくれるありがたい本である。日本語を表示させるときの設定や、Netscape NavigatorをFTPサーバーから持ってくる手順から書かれているので、これからNetscape Navigatorを使い始める人も安心して読める。機能の説明は表示されるメニューの項目が中心で、「この項目では何が設定できるのか」という疑問が生じたときに適切に説明を見つかることができる。マニュアル代わりに使



Stuart Harris, Gayle Kidder 著
吉村 信訳
翔泳社発行
147頁 1800円
ISBN : 4-88135-256-3

うには便利な構成になっている。ほかには、おもしろいリソース、有益なリソースの情報を紹介する章、HTMLをエディタで書きながらホームページを作成する章がある。しかし、ホームページの作成は、GIFファイルをインターネット上の他のホームページから拝借するという番外編的な操作で締めくくられており、実際にHTMLを書くには別の入門書が必要だ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp